

構造化評価システム



The Structured Scoring System of  
Social and Occupational Functioning Assessment Scale

sSOFAS とは

- sSOFAS は SOFAS を算出するツールである。
- 対象者は就学以降である。

測定者

- 対象者の評価に十分な情報を持った代理人からの聴取によって採点が可能である。また臨床において情報を十分に得ている支援者・医師等が面接を省いて採点することが可能である。

測定のルール

- sSOFAS は直近の 1 ヶ月間の行動評価を行う。sSOFAS での 1 ヶ月とは 4 週間 28 日のことを指す。28 日以前のことを評価に含めない。
- 精神障害の症状、心理状態は評価しない。
- 該当する基準の中から最も低評価のものを選択する。評価の確定の際には、より低いレベルの評価を検討し、該当しないことを確認する。
- 領域 1～3 で F・G の評価であった場合、重症例の評価を行う。
- 急激な環境の変化(転校・転居・進学・就職・結婚)をした場合にはイベントが起こる直前の点数を参考値として測定する。

表記のルール

- a～b という記述は、a 以上 b 未満を意味する。
- 基準の文章が 2 つ以上ある場合は、片方を満たせば評価する。「かつ」ではなく「または」と解釈する。

## 社会的活動の計測の手順

1. 学生（就労をしていない全日制の小・中・高・高専・短大・大学の学生）→領域 1a を計測
2. 学生（学業と就労など複数の活動を兼業している学生、1a の学校の欠席が 40%以上の学生）  
→領域 1a と 1b 両方を計測し、高い方を採用
3. その他（就労者・主婦・無業・大学院生・予備校生など）→領域 1b

### 領域 1a 学校

質問	対象者の登校状態を評価する
A	欠席が登校日の 5%未満
B	欠席が登校日の 5～10%未満
C	欠席が登校日の 10～20%未満
D	欠席が登校日の 20～40%未満
E	欠席が登校日の 40～60%未満
F	欠席が登校日の 60～100%未満
G	全く登校していない

- 単位制の学校(大学等)では進級・卒業に必要な単位のみを測定する。
- 測定日が大型連休や夏休み中である場合は、最後の学校の登校日までの 1 カ月を評価する。

### 領域 1b 仕事

質問	対象者の就労・家事・介護(介助)・育児・学習・余暇活動・社会復帰活動を合わせた活動時間を評価する
A	週 50 時間以上
B	週 40～50 時間未満
C	週 30～40 時間未満
D	週 15～30 時間未満
E	週 5～15 時間未満
F	週 0～5 時間未満
G	まったく行っていない

- 社会復帰活動は、入院を除く治療行為・デイケア・ナイトケアを 30%で評価、就労支援事業での雇用を 50%で評価、リワーク・職業訓練は 70%で評価する。50%で評価とは 10 時間従事の場合に 5 時間と評価すること。
- 余暇活動とは趣味活動、スポーツ活動、クラブ活動、自治会活動、地域活動、宗教活動、PTA 活動、NPO 法人やボランティア活動などで、活動を通してコミュニケーションがあるものに限定して評価する。また、同居家族だけで行う活動とオンラインを通しての余暇活動は除外する。

## 領域 2a 交流

対象者の同居家族以外の他者の会話を評価する	
A	重要な他者との会話が週 4 回以上
B	重要な他者との会話が週 1 ～ 4 回未満
C	重要な他者との会話が月 1 ～ 週 1 回未満
D	重要な他者との会話が月 1 回未満 / その他の他者との会話が週 4 回以上
E	その他の他者との会話が週 1 ～ 4 回未満
F	その他の他者との会話が月 1 ～ 4 回未満
G	その他の他者との会話が月 1 回未満

- 重要な他者とは、同居家族を除いた、友人、知人、恋人、同僚、親類など親しい関係にある人である。
- その他の他者との会話とは同居家族・重要な他者を除いた人との会話である。業務上の会話、上司・部下との会話、顧客やサービスの提供で生じる会話、友人ではないクラスメイトとの会話、教師・生徒との会話、医師・看護師・社会福祉士・心理師・介護福祉士など医療・福祉サービスで生じる会話など。
- 会話には対面での会話だけではなく、電話・チャットなども含む。
- 買い物の時の店員との定型的な受け答えは会話として評価しない。

## 領域 2a 交流－グリッド表現

対象者の同居家族以外の会話の頻度評価する				
	頻度			
会話の相手	週 4 回以上	週 1 ～ 4 回未満	月 1 ～ 4 回未満	月 1 回未満
重要な他者との会話	A	B	C	D
その他の他者との会話	D	E	F	G

※最も重い評価を採用する

## 領域 2b 不和

対象者の同居家族以外の人との間の不和を評価する	
A	対人関係上の不和がない
B	軽度の不和が月 1 ～ 週 1 回未満
C	軽度の不和が週 1 ～ 4 回未満
D	軽度の不和が週 4 回以上 / 重度の不和が月 1 ～ 週 1 回
E	重度の不和が週 1 ～ 4 回未満
F	重度の不和が週 4 回以上
G	他害行為が月 1 回以上

- 軽度の不和とは不快なやり取り、嫌がらせなど。
- 重度の不和とは情緒的ないじめ、外傷のない身体的暴力、暴言、かんしゃく、パワハラ・セクハラなど。
- 他害行為とは、出血・骨折・医療によるケアを受ける必要のある外傷・心的外傷など。未遂は 1 カウント軽く評価し F とする。
- 加害・被害とも同様に評価する。
- 知人以外からの不和・暴力は評価しない。
- 暴力の正当性は評価しない。体罰は身体的暴力として評価する。

## 領域 2b 不和－グリッド表現

対象者の同居家族以外の人との間の不和を評価する				
	頻度			
不和の程度	なし	月 1 ～ 4 回	週 1 ～ 4 回	週 4 回以上
軽度の不和	A	B	C	D
重度の不和		D	E	F
他害行為		G		

※最も重い評価を採用する

### 領域 3 家族関係

質問	対象者の同居家族との状態を評価する
A	誰とも対立がなく、十分な交流がある
B	軽度の不和が月 1 ～ 週 1 回未満 / 一人暮らし
C	軽度の不和が週 1 ～ 4 回未満
D	軽度の不和が週 4 回以上 / 重度の不和が月 1 ～ 週 1 回未満
E	重度の不和が週 1 ～ 4 回未満
F	重度の不和が週 4 回以上
G	他害行為が月 1 回以上

- 同居家族とは、平均して週 1 回以上泊まっており、被験者が同居家族であると述べた者。ただし、被験者の供述とは別に恋人の同棲は同居家族に含む。
- 軽度の不和とは意図的に無視をする、口をきかないといった交流の乏しさ、不快なやりとり、継続的な対立・口論など。
- 重度の不和とは暴言、かんしゃく、外傷のない身体的暴力、性的な嫌がらせ。
- 他害行為とは、出血・骨折・医療によるケアを受ける必要のある外傷・心的外傷、虐待(身体的・性的・ネグレクト)など。未遂は 1 カウント軽く評価し F とする。
- 数日で仲直りする口論・ケンカなど一時的な関係性の悪化は評価しない。
- 暴力の正当性は評価しない。体罰は身体的暴力として評価する。

### 領域 3 家族関係－グリッド表現

対象者の同居家族との状態を評価する				
	頻度			
不和の程度	なし	月 1 ～ 4 回	週 1 ～ 4 回	週 4 回以上
軽度の不和	A	B	C	D
重度の不和		D	E	F
他害行為		G		

※最も重い評価を採用する

## 重症例サプリメント

## 重症例－領域 4A 栄養の摂取

質問	対象者の栄養摂取と BMI について評価する
－	H～J には至らない
H	16 歳以上: BMI14～16 であり、監督・監視なしに栄養摂取が可能 13～16 歳: BMI13～16 もしくは、標準成長曲線で身長か体重が-2SD 以下であり、監督・監視なしに栄養摂取が可能 6～12 歳: 標準成長曲線で身長または体重が-2SD 以下であり、監督・監視なしに栄養摂取が可能
I	16 歳以上: BMI14～16 であり、監督・監視が栄養摂取に際して必要 / BMI が 12～14 13～16 歳: BMI13～16 もしくは、標準成長曲線で身長か体重が-2SD 以下であり、監督・監視が栄養摂取に際して必要 / BMI が 11～13 6～12 歳: 標準成長曲線で身長または体重が-2SD 以下であり、監督・監視が栄養摂取に際して必要
J	16 歳以上: BMI12～16 であり、常に自力での栄養の摂取はできず、何らかの医療的措置によって栄養を補充されている / BMI が 12 未満 13～16 歳: BMI11～16 もしくは、標準成長曲線で身長か体重が-2SD 以下であり、常に自力での栄養の摂取はできず、何らかの医療的措置によって栄養は補充されている / BMI が 11 未満 6～12 歳: 標準成長曲線で身長または体重が-2SD 以下であり、常に自力での栄養の摂取はできず、何らかの医療的措置によって栄養は補充されている
●	BMI(Body Mass Index)とは、体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)の計算で導かれる指標。例えば、150cm で 45kg の場合、 $45 \div 1.5 \div 1.5 = 20$ となる。BMI18.5 以上 25 未満が正常体重の範囲である。
●	医療的措置による栄養補充とは、鼻腔チューブ、胃ろう、中心静脈栄養など。自ら摂取する総合栄養剤は含まない。

## 重症例－領域 4B 清潔性

質問	対象者の清潔性について評価する
－	H～J には至らない
H	入浴またはシャワーなど、身体を洗ったのが週に平均して 1 回以上 2 回未満である 生活環境から悪臭を放つなどの問題はあるが、健康を損なうほどではない
I	入浴またはシャワーなど、身体を洗ったのが週に平均して 1 回未満である 自力では排泄物の処理ができないときがある
J	常に、自力では排泄物の処理ができない
●	看護と監督によって達成されている場合には 1 カウント重く評価する。

重症例－領域 4C 自傷・他害による行動制限

質問	対象者の自己または他者を傷つける行為に対しての行動制限について評価してください。
－	H～J には至らない
H	隔離されている。
I	体幹は拘束されているが、両上肢は拘束されていない。
J	体幹および両上肢を含む拘束がされている。
● 最も高度な隔離・拘束、もしくはその必要性に従って採点する。	
● 必要性がある場合にも同様の評価をする。	

## SOFAS 社会的職業的機能評定尺度

## Social and Occupational Functioning Assessment Scale

社会的職業的機能を、優れた機能からひどく低下した機能に至る 1 つの連続体のなかで検討せよ。機能の低下には、精神的な障害によるものだけでなく、身体的な制限によるものも含めること。精神的および身体的な健康の問題による直接的な結果のみ機能の低下として評価する。機会の欠如や他の環境的制限の効果は考慮しないこと。

コード(注：適切な場合、中間の値のコードを用いよ。例えば、45、68、72 など)

100-91:	広範囲の活動にわたる最高の機能。
90-81:	すべての領域で十分に機能し、職業的にも社会的にも役割を果たしている。
80-71:	社会的、職業的、または学校における機能にごくわずかな障害以上のものがない (例:たまに対人関係上の不和、一時的に学業で遅れをとる)
70-61:	社会的、職業的、または学校における機能にいくらかの困難があるが、全般的には、機能は良好であって、有意義な対人関係もいくらか存在する。
60-51:	社会的、職業的、または学校における機能に中等度の困難(例:友達がほとんどいない、仲間や同僚との不和)
50-41:	社会的、職業的、または学校における機能に重大な欠陥(例:友達がいない、仕事を続けることができない)。
40-31:	仕事や学校、家族関係などのいくつかの面で粗大な欠陥(例:抑うつ的な男が友人を避け、家族を放置、仕事をすることができない。子供がしばしば年下の子供を殴り、家庭では反抗的であり、学校では落第・退学をしそうである)。
30-21:	ほとんどすべての面で機能することができない(例:一日中床に就いていて、仕事や家庭や友達がいない)。
20-11:	ときには最低限の身の清潔維持ができず、独立して機能することができない。 最低限の身の清潔維持が持続的に不可能。自己または他者を傷つけることなし
10-1:	に機能することができない。または、外部からのかなりの支持(例:看護と監督)なしに機能することができない。
0:	情報不十分

アメリカ精神医学会『DSM-IV 精神障害の診断と統計マニュアル』医学書院。  
(訳語を一部変更しています。)